特定非営利活動法人日本栄養改善学会　関東・甲信越支部

第３回　現場で活躍する管理栄養士・栄養士のための実践栄養学研究セミナー
－実践活動報告初級編－

小澤　啓子[*1、*2]、荒井　裕介[*3、*4]、木村　典代[*5、*6]
[*1]関東・甲信越支部実践栄養学研究セミナー担当　[*2]女子栄養大学短期大学部
[*3]関東・甲信越支部副支部長　[*4]千葉県立保健医療大学　[*5]関東・甲信越支部長　[*6]高崎健康福祉大学

関東・甲信越支部では、第 18・19 期事業として実践栄養学研究セミナーを実施した。コンセプトを、「実践現場での活動をまとめる力をつけて、自分の仕事を“見える化”する　― 1 年後には学会発表をしよう!! ―」とし、第一部は誰でも参加できるオンラインセミナーにて実践栄養学研究の意義を理解する、第二部は、オンラインセミナー受講生が、自分自身のデータを用いた学会発表を目指す実践活動報告初級編とし、少人数制の演習形式、チューターによるバックアップを受けられる体制を整えて実施した。

Ⅰ．実施日程・内容・参加費・受講者

1.　第一部：オンラインセミナー

①開催日程：2021 年 2 月 6 日～14 日（土）
オンデマンド配信

②実施内容：
【講義】実践活動研究の意義（小澤啓子）
【講義】実践活動報告の意義と執筆のポイント
（赤松利恵・お茶の水女子大学）
【座談会】実践活動報告論文執筆者の体験談
（布川美穂・過去 2 回のセミナー参加者、黒谷佳代・昭和女子大学、荒井裕介、小澤啓子）
【講義】有意義な学術総会参加の仕方（木村典代）

③オンデマンド配信視聴料：
会員 1,000 円　　非会員 2,000 円

④受講者：66 名（本支部会員 28 名、他支部会員 15 名、非会員 23 名）

2.　第二部：実践活動報告初級編

①開催日程・内容
第 1 回　2021 年 3 月 20 日（土）10 時～16 時
オンライン開催
【講義】学会発表するために必要なこと
【講義】倫理的配慮、COI について
【講義・演習】計画立案・フレームを考える
【講義】計画書の作成
第 2 回　2021 年 11 月 13 日（土）10 時～16 時
会場（女子栄養大学駒込校舎）とオンライン併用
【発表】各自の調査実施についての発表
【講義】データセットの作り方のポイント
【講義】記述統計と基本的な統計
【演習】自分のデータを整理する
【発表】進捗報告、意見交換
第 3 回　2021 年 12 月 18 日（土）10 時～16 時
会場（女子栄養大学駒込校舎）とオンライン併用
【演習】課題の振り返り
【講義】抄録の書き方
【講義】口頭発表と示説発表のポイント
【演習】抄録作成、スライド作成
【発表】進捗報告
第 4 回　2022 年 1 月 29（土）13 時～16 時 30 分
オンライン開催
【発表】成果発表会
意見交換会、修了式

③チューター・オブザーバー（敬称略・五十音順）
チューター
神田聖子　（愛国学園短期大学）
小手森綾香（麻布大学）

塩原明世（東洋大学）
新保みさ（長野県立大学）
藤崎香帆里（相模女子大学）
渡辺優奈（新潟医療福祉大学）
小澤啓子（女子栄養大学短期大学部）
チューター兼オブザーバー
荒井裕介（千葉県立保健医療大学）
オブザーバー
木村典代（高崎健康福祉大学）

④参加費：20,000 円（本学会員のみ、オンラインセミナーと一括申込み者は両方で 20,000 円）

⑤受講者：9 名（途中脱落者 0 名）

Ⅱ．評価

1．オンラインセミナー

66 名中、事後アンケートには 47 名から回答を得た（回収率 71.2%）。主な結果を表 1 に示す。

2．実践活動報告初級編

事後アンケートは 9 名全員から回答を得た。主な結果を表 2 に示す。

表 1　オンラインセミナー事後アンケート

満足度		「満足」53.2%、「やや満足」34.0%、「ふつう」8.5%、「不満」4.3%（不満の回答者は全員未視聴者）
理解度	実践栄養学研究の意義	「とても理解できた」61.7%、「ある程度理解できた」29.8%、「どちらともいえない」2.1%、「視聴していない」6.4%
	実践活動報告の意義と執筆のポイント	「とても理解できた」57.5%、「ある程度理解できた」36.2%、「どちらともいえない」2.1%、「視聴していない」4.3%
	実践活動報告論文執筆者の体験談	「とても理解できた」55.3%、「ある程度理解できた」38.3%、「どちらともいえない」2.1%、「視聴していない」4.3%
	有意義な学術総会参加の仕方	「とても理解できた」59.6%、「ある程度理解できた」31.9%、「どちらともいえない」2.1%、「視聴していない」6.4%
実践活動研究への意識		「行いたいと思った」87.2%、「行いたいと思わなかった」6.4%、「未回答」6.4%
参考になったこと		・実践活動の意義が理解できた。 ・研究と実践活動報告の違いを理解できた。 ・赤松先生の初学会発表体験談は、後輩の私たちに勇気を与えてくださいました。 ・前セミナーの参加者であり、論文が掲載された布川さんが、大変だったけれどとても大きな経験が出来たと、生き生きとした表情でお話をされていたのが印象的でした。 ・体験談が参考になった。
その他意見		・具体的内容をもう少し詳しく聞きたかった。 ・仕事と研究の両立の方法について知りたかった。 ・好きな時間に視聴できるのがよかった。 ・講義ごとに動画が分かれていて聴講しやすかった。 ・実践現場の方が一歩踏み出すためのモチベーションを高めるためにとても工夫がなされていると感じました。 ・視聴期間が短い。 ・資料をダウンロードしたい。

Ⅲ．今後にむけて

第一部となるオンラインセミナーの開催は初めての試みであった。日常業務に役立てるために、「学術雑誌を読んでみたもののポイントがわからない」「学術総会に参加してみたいけれどちょっと敷居が高いかも・・・」「実践活動報告をまとめてみたいけれど方法がわからない」といった方達にとってオンラインセミナーは参加しやすいと考え企画した。結果、本支部会員のみならず、他支部会員、非学会員の方にも多く受講いただき、実践活動報告初級編への参加のために本

学会に入会された方もいらした。実践栄養学研究に取組む導入としてオンラインセミナーの開催は成果があったと考える。一方で視聴時間が短い、配布資料が欲しいといった意見があった点は今後の課題である。

第二部となる実践活動報告初級編は、オンラインセミナー受講後の参加のため、全員が実践栄養学研究の意義を理解し、自分自身が取り組む目的や目標も明確であった。1 年間という長期間であったが、全員が抄録作成・口頭発表まで実施し、5 名の受講生が第 8 回本支部学術総会へ演題申込みをすることができた。しかしチューターの負担が大きく、セミナー開催日以外にも多くの時間をサポートに費やすこととなった。今回のセミナーは学会発表が到達目標であったが、今後も実践活動に取り組んでいく、結果を学会発表のみならず論文としてまとめることが受講生にとっては必要となってくる。そのため、セミナー後も継続的な支援が必要であると考える。チューターが支援し続けるには限界があるが、これまでに蓄積してきたコンテンツの有効活用など、支部としての支援の体制づくりが喫緊の課題であると考える。またコロナ禍で予定変更となることが多く、会場確保やオンラインとの併用開催実施にむけた体制整備にも時間を費やすこととなった。しかし、この 1 年間の実施を通してオンライン化することのメリット、対面でこそ実施したいことも見えてきた。この経験を今回限りにせず、今後の支部事業にいかしていくことが重要である。

最後に本セミナーを開催するにあたり、オンラインセミナーにてご講義をいただきました先生方、チューターを務めていただいた先生方をはじめ多くの方々のご指導とご協力を賜りました。心よりお礼を申し上げます。

表 2　実践活動報告初級編事後アンケート

受講満足度		「満足」8名、「やや満足」1名
理解度	実践活動報告の意義	「とても理解できた」7名、「理解できた」2名
	学会発表までの流れ	「とても理解できた」8名、「理解できた」1名
	倫理的配慮・COI	「とても理解できた」8名、「理解できた」1名
	計画立案	「とても理解できた」6名、「理解できた」3名
スキル	調査実施	「とても身についた」2名、「身についた」4名、「どちらともいえない」2名、「あまり身につかなかった」1名
	データの解析	「とても身についた」2名、「身についた」4名、「どちらともいえない」3名
	抄録作成	「とても身についた」5名、「身についた」4名
	発表スライド作成	「とても身についた」5名、「身についた」5名
	発表する	「とても身についた」2名、「身についた」6名、「あまり身につかなかった」2名
実践活動への意欲		「今後も実施していきたい」6名、「なるべく実施していきたい」3名
到達目標に対する達成度 （1年後に学会発表）		受講生9名全員が抄録作成および口頭発表を行った。 うち5名が第8回関東・甲信越支部学術総会へ一般演題（スライド発表）申込みをした。
その他意見		・セミナー全体を通して講義の内容や実践例が具体的・丁寧でわかりやすかった。 ・講義はオンデマンド配信されるので、復習をすることができてよかった。 ・チューターの先生方の指導が的確で、サポート能力やサポートの仕方も学ぶことができた。 ・1年間じっくり取り組めることができた。 ・セミナーへ参加したことで、実践活動をまとめることへの意識が高まった。 ・コロナ禍で先生方や受講生と会えなかったのが悔やまれる。学会会場などで是非会いたい。 ・オンライン開催だと遠方でも参加できる。チューターの先生方からもメールだけでなく、オンラインにてサポートいただき、理解が深まった。 ・全体のスケジュールが後半に偏っていて、まとめる作業の時期が厳しかった。 ・セミナー終了後のサポートをしてほしい。 ・論文執筆や統計解析に関するセミナーも実施してほしい。